

令和元年度 学校自己評価 評価基準表

海田町立海田南小学校

令和元年10月2日

学校経営理念

- 子ども：「自分のよさが発揮でき、学習することが楽しいと感じることができる」学校
- 保護者・地域：「子どもをかわせてよかった、学校があつてよかったと思える」学校
- 教職員：「持ち味が発揮でき、チームで動き、やりがいのある」学校

評価計画						
ビジョン(めざす姿) 目標	評価項目(取組)	評価指標(目標値)	評価	中間指標	10月以降の改善案	
か	考えぬく頭 自ら考え、「見方・考え方」を豊かにし、深い学びをする児童	1 カリキュラムマ・ネジメントを行い、児童が深い学びをする課題発見・解決型の授業を行う。	「課題発見・解決学習」に関する児童意識調査の肯定的評価の割合 82.5%以上 80%以上 77.5%以上 77.5%未満	4 3 2 1	「課題発見・解決学習」に関する児童意識調査の肯定的評価の平均は、79.1%であり、昨年度の同時期と比べ1.8ポイント上がっている。	自分の考えを理由セットで積極的に発表することができる児童を増やすために、授業では、協働的に学びながら、考えを深めたり広げたりする時間を十分に確保している。
		2 家庭・地域と連携した体験活動を生かした道徳科授業の推進を図る。	「道徳の授業のチェックリスト」の項目の平均達成数 10個以上 5個以上 5個未満	4 3 2 1	考え議論する道徳の授業のチェックリストの項目の平均達成数は7.35であり、昨年度の同時期と比べ0.85ポイント上がっている。	家庭・地域と、なお一層の連携を図る。連携の在り方について授業研究を通して共通理解を図りながら、引き続き道徳科の授業改善に取り組む。
	学びのための習慣と基礎・基本の学力の定着した児童の育成	3 各種学力調査(全国・NRT・CRT等)の結果を分析し、課題を見つけて取り組む。	各種学力調査(全国・NRT・CRT等)の正答率30%未満の児童の割合 0% 10%未満 15%未満 15%以上	4 3 2 1	全国学力テスト正答率が30%未満の児童の割合：国語3.1%、算数4.2%であった。NRT正答率が30%未満の児童の割合：2年1%、3年4%、4年6.1%、5年5.3%	全校で共有した課題について、授業改善に努め、基礎学力の定着を図る。国語においては、自分の意見を理由付けして話したり、条件に合わせて文章を書いたりする活動を取り入れる。算数においては、式や図・表・グラフ等と関連付けた説明をさせるようにする。
		4 考えるノート指導、意味のある家庭学習の習慣を身につけさせ、基礎基本の学力の向上を図る。	職員室前掲示板に、児童の考えが見えるノートを掲示する学年ごとの月の枚数。 9枚以上 6枚以上 3枚以上 2枚以下	4 3 2 1	9月までに、1～5年生で6枚以上の掲示ができた。自分の考えが残るノートとして、児童のよい手本となった。	各学年のノートの枚数9枚を目標にするとともに、1年生のノート掲示を10月より行っていく。今後は、作文や観察文など多様なノートの掲示をいき、考えるノート指導の質の向上をめざす。
		5 朝のぐんぐんタイムを活用し、音読や計算などを繰り返し行い、脳の活性化と基礎基本の学力の定着を図る。	各学年で指定した詩を覚えた児童の割合、及び計算プリントの正答率80%以上の児童の割合 85%以上 80%以上 75%以上 75%未満	4 3 2 1	指定した詩を覚えた児童の割合は65%、計算プリントの正答率80%以上の児童の割合は86%であった。	音読を実施する際に、暗唱している児童を定期的に確認していくことで、意識付け。計算プリントは、引き続き基礎学力が定着するように、取り組んでいく。
進んで読書をする児童	6 児童が積極的に読書活動を進めるような図書館教育、家庭での読書の推進、及び委員会や学級指導を行う。	年間の図書の出貸冊数が60冊を越えた児童(読書名人)の割合 85%以上 80%以上 75%以上 75%未満	4 3 2 1	読書名人の認定表彰などの取組により、児童の読書意欲が高まり、図書の出貸し冊数が増えた。読書名人24人。保護者アンケート「家庭でプリア読書を月1回以上取り組んでいる」は87.1%であった。	読書名人の認定表彰などの取組を継続していくとともに、学校における読書活動の様子を紹介していく。保護者へのプリア読書の啓発を積極的に行っていく。	
い	意気高い心 自らを律しつつ、友達と協力し、人や物や場を大切に児童	7 児童会と連動した生活目標を実施し、整理整頓・あいさつ・無言清掃・無言集合を自分から進んでする児童を育てる。	あいさつは、教職員・保護者・地域ボランティアの肯定的回答の割合、整理整頓・無言清掃・無言集合は、教職員の肯定的回答の割合。 80%以上 70%以上 60%以上 60%未満	4 3 2 1	教職員の肯定的評価の割合は、あいさつ62%、整理整頓76%、無言清掃96%、無言集合90%。保護者・地域の肯定的評価の割合は、あいさつが平均84.5%。	「あいさつ」「整理整頓(トイレのスリッパ)」は生活目標と合わせて取り組む。また、児童会と連携して児童の意欲が高まるようなイベントを企画する。
		8 音楽科で育てた声質や歌の姿勢を大切に、響きあう美しい歌声の児童を育てる。	音楽科以外学級で響きあう歌声(リコーダーを含む)で歌う回数 1日に2回以上 1日に1回 2日に1回以上 2日に1回以下	4 3 2 1	肯定的評価は、1日に1回が92%、1日に2回以上が30%。	どの学年も朝の会で歌うことは習慣化している。婦りの会で、歌の一番のみや、短い歌を歌う取組をする。
	9 特別支援教育の取組を生かしたユニバーサルデザインの授業づくりを推進するとともに、力のつく交流及び共同学習等を実施する。	ユニバーサルデザインの学級経営チェックリストの項目の平均達成の割合及び交流連絡カードを用いて交流担任と連携を取って行った授業の数の割合。 80%以上 70%以上 60%以上 60%未満	4 3 2 1	教職員の肯定的評価は70%を超えている項目が18項目中11項目であった。肯定的評価が得られなかった項目の中で特に数値が低かったものが、「わかりやすい板書になっている」と「児童の発言をオウム返ししていない」の2項目であった。交流カードを用いた交流担任との連携は70%以上で出来ている。	「わかりやすい板書になっている」と「児童の発言をオウム返ししていない」という2項目については、参観日などで行った授業について、板書の記録を取り、共に学びあう場を作る。「児童の発言をオウム返ししない」というについては、「○○さんはどんなことを言っていましたか。」を共通の話題とし、児童が話を聞き、自分の言葉で説明できる場を設定する。交流カードの活用については、このまま継続する。	
た	たくましい体 自ら体力の目標をもって向上させ、健康な生活を創る児童	10 養護教諭・栄養教諭と協働した保健・食育の立案と推進を図る。	年間60時間以上(栄養教諭：40時間、養護教諭：20時間)担任と連携し、保健・食育の指導を行う。 50時間以上 40時間以上 30時間以上 20時間以上	4 3 2 1	担任と連携し、保健・食育の指導を、栄養教諭：15時間、養護教諭：6時間、計21時間行った。	食の年間指導計画等に沿って、担任と連携し、保健・食育の指導を行っていく。10月以降の授業で、40時間以上を達成する予定である。
		11 体力テストの結果(H31年度)を受け、重点項目における体力の向上を図る。	各学年で重点項目を1つ決めて記録向上に取り組む、2学期終了までに2回目の測定を行う。その際、全国平均値を上回る学年(男女別)を10以上にする。 10以上～12 7～9 4～6 3以下	4 3 2 1	体力テストで平成30年度広島県平均かつ平成29年度全国平均を超えている割合(各学年の全国平均超種目数の合計÷全体の種目数)は50%(○上体起こし ▼50m走、立幅跳、ボール投げ)	広島県平均かつ全国平均を下回った種目について、各学年で重点項目を決め、原因を分析し、改善に向けて体育の授業・家庭学習で取り組む。
	12 安全教育(保護者と連携した児童引渡し訓練、必然性のある避難訓練、防犯教室、スマホ教室等)、教職員の危機管理対応研修を通して、安全に気をつけた行動のとれる児童を育てる。	改善を次に生かす職員研修を、講師を招聘し行う。 4回以上 3回 2回 1回以下	4 3 2 1	救命救急・不審者対応の教職員対象の研修を行い、その後の学校生活や、避難訓練に生かすことができた。	今後、予定されている避難訓練や日々の学校生活の中で研修で学んだことを生かし、事後アンケートを活用して改善に努める。	
みなぎる・みんなの力で	組織的に、かつ協働することで、活力ある教育活動を展開し、保護者や地域に信頼される学校	13 丁寧な家庭連携、地域行事への積極的な参加を通して、地域・保護者に信頼される教職員集団をめざす。	保護者アンケートにおいて、「信頼される学校」に関する項目の肯定的評価の割合を80%以上。 90%以上 80%以上 80%未満 70%以上 70%未満	4 3 2 1	学校評価保護者アンケートにおいて、「教職員は素早く丁寧に対応し相談しやすい」の肯定的評価が94.6%。「海田南小学校の教育に満足している」の肯定的評価が94%であった。	電話連絡や家庭訪問などを通して家庭との連携を図ってきた。問題があった時には、組織で対応し、早期の解決を図るよう引き続き取り組んでいく。
		14 タイムマネジメントで仕事を行うことを通して、退校時刻を守り、見通しをもって仕事ができる教職員集団をめざす。	毎月3回以上、退校時刻を守ることができた教職員の割合を80%以上。 90%以上 80%以上 80%未満 70%未満	4 3 2 1	毎月3回以上、退校時刻を守ることができた教職員の割合が、6月が70.5%、7月が51.6%、8月は94.1%であった。	成績処理や、学期末など多忙になる7月に達成率が下がる。成績処理の時間を確保するとともに、学年主任がリーダーシップをとり、計画的に仕事が行えるよう努める。